

条例検討委員会・自分ごと化会議合同会議 第7回議事メモ

分科会	第1分科会(環境保全)
コーディネーター	永由 裕大
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	なし
日時	2022年 7月 17日(日) 10時から 12時50分
場所	産業文化会館1階大会議室
その他	参加者数 <u>7名</u> 欠席者数 <u>20名</u> 条例検討委員 <u>5名</u> 傍聴者 <u>1名</u> 市職員 <u>1名</u>

趣旨・概要

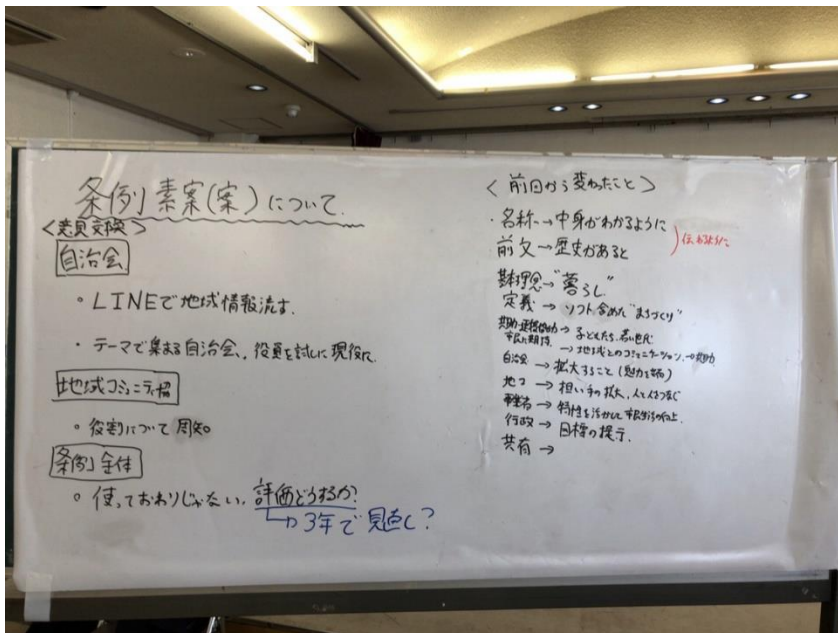
- 条例素案(案)をもとに議論

主な論点

論点① 条例素案(案)について

論点② まちの課題と解決策についてのご意見に対する回答

ホワイトボードの写真



(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

## 協議の流れ

(事務局) 当日配布資料の確認。

(会長) 意見交換会の報告。

### ● 条例素案(案)に関する説明。

(会長) 長岡京市 助け合いとつながりのまちづくり条例素案(案)について説明。

- ・ 前は骨子案だったので、条例の作りにはしていなかったが、今回は1条、2条という条例の作りになっている。内容はほとんど変わっていないが、変更点についてはこれから説明をする。
- ・ 「長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例」という名称に変わった。合同会議の中で仮称としていた「共助と連携の自治振興条例」という名称から、より柔らかく、分かりやすい名称にした。
- ・ 合同会議で頂いた意見を踏まえ、前文に「歴史と伝統に育まれた住みやすいまちである」という記述を加えた。
- ・ 2条は、「安心・安全」というのは範囲が広いという意見を受け、「日々の暮らし」に焦点を当て、「安心・安全に暮らせるまちづくり」という表現にした。
- ・ 用語の定義にまちづくりについての定義を入れた。ハード面だけではなく広い意味で、むしろソフト面が中心であることを強調した。
- ・ 4条の3項に「参加の機会が少ない子どもや若い世代の参加を大切にする」という項目を追加した。子どもや若い世代のまちづくりへの参加が課題だという意見が多数出たため。
- ・ 5条では、子どもや子育て世帯を表に出している。
- ・ 5条の3も合同会議の意見を踏まえ、市民に期待する役割で、共助と繋がっていくためにもという意味で「地域とコミュニケーションを取る情報を得ること」を追加した。
- ・ 6条4の自治会に期待する役割の中で、自治会自身の活動に住民の共感を高めて、魅力を共有して会議を拡大するという会員拡大の役割を加えた。
- ・ 7条の2で、地域における様々な担い手が情報交換して、協力連携するきっかけを作るとなっていたが、さらに今の担い手が連携・協力するきっかけだけではなく、担い手の拡大にも繋げていただきたいという役割を追加した。
- ・ 9条1号では、「事業者の特性を活かし」を入れた。まちづくりだという意識を持っていなくてもまちで行う事業内容そのものがまちづくりである。
- ・ 10条では4号を加えた。行政自身がまちの課題に対する将来の目標を示して市民と対話する、というリーダーシップも大事であるという意見を踏まえて追加した。情報共有では、どんなことをやっても取り残されている人はいる恐れは常にあるので、あえて入れた。

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

条例素案(案)に関する意見交換

(コ) まずは名称と前文について意見はいかがか。

(委員) 名称はわかりやすいと思うが、「つながりのまちづくり」なのか、「つながりのあるまちづくり」なのかかわからない。誇れるのは「活動が新たに展開されるようになった」の後に書いた方が、厚みが出るのではないか。「安心・安全」がキーワードとして作られているが、目的の中にも「助けあいとつながり」をキーワードとして入れた方が良い。

(会長) その通りだと思う。

(委員) 今発言された内容について同意。「長岡京市が誇れるもの」の前に、現在行われている様々な活動の拡大を図っていくための条例でもあると思うので、その意味で委員のご意見がよいと思った。

(委員) 気になるところはないが、「安心・安全」というワードは感覚的に有事のイメージを連想してしまう。

(コ) 「安心・安全」の議論は経緯があったのか？

(会長) 有事はもちろんだが、日々の暮らしを安心安全に暮らすということが大切だという意味で「安心・安全でくらしやすい」としている。なので、思いは委員と同じ。もう一つ特徴として、条例全体を「ですます調」にしている。全国的に見ても珍しい。市民に分かりやすく寄り添った文調・文体にしている。

(コ) 条例の解説書について会長から説明をお願いしたい。

(会長) 具体的な事例や、こういう思いでこの条文がありますというような解説書を長岡京市役所で作ろうとしていると聞いている。条例検討委員会でも全面的に協力することにしていく。解説書については後で室長から話がある。

(コ) 条例の変更点について意見はいかがか？

(委員) 子育て世代という所について、ひとり親世帯は子育てと仕事に追われているので、「情報を得る、参加をする」という部分が難しいのではないか。子育て支援しているグループが長岡京市に増えたり、情報がちゃんと連携されたりするようになれば、共助の部分で子育て世帯の方を助けられるのではないか。

(会長) ひとり親の方は関心があっても参加は難しいのはその通りだと思う。今回の条例は義務を課す条例にはしていない。また、子育て世代に届くまちづくりをしていくためには、当事者に発言してもらうことが大事なので、そういう人たちにも参加してもらえる仕組みをつくるのが行政にとって大事だと思う。

(コ) 11条のところで情報の共有というお話だったと思うが、「誰一人取り残さないようにしていく」というのはもしかすると行政だけではなく、テーマ型で活動している人も意識した方がいいかもしれない。自ら発信していくことが大事だと思う。解説書でわかりやすくしていくときに、こうした視点を大切にしていけたらいいと思う。

(委員) 第5条で、子どもから子育て世帯、高齢者までとあるが、最近は独身の方も増え

ている。今の書き方では、子どもがいる家庭や高齢者にフォーカスしているように見える。私自身がシングルマザー。なかなか参加しづらいなかでも、親子一緒に参加できるような地域活動の情報があれば親としても、子どもの学びの機会としても良いと思う。広報紙などは情報の見せ方が大事。環境に対する事なども載せると目に行きやすいと思う。

(会長) 5条で行政が保証することや行政の情報発信が大事ということだと思うので、市民に期待する役割というよりは、4条のところでもとめたほうが良いかなと思った。もう一つ、前は子どもから高齢者までとしていたが、子育て世帯を大事にしたいという意見があったので強調するような表現に変えたという経緯がある。今のご意見のとおり独身の方やシングルの方がそれで疎外感を持たれるなら配慮が必要。

(委員) 独身の人も増えているので、子育て世帯と強調すると気になる方もいるのではないかな。

(委員) 広報での表現で、同じように感じた。子育て世帯と強調される表現は多いが、独身の方や、結婚しても子どもを持たないという選択をする方もいる。子育て世帯じゃないと地域の活動に参加しづらいというのはあると思う。そういう人たちこそもっと地域活動に参加してほしい。子育て世帯に限定しなくてもよいと思う。

(条例委員) 子育てに携わらない方は増えているので、配慮が必要かなと思った。例えば、「すべての市民はまちづくりの重要な担い手である」とした中で、次世代を担う方々という意味合いの良い表現ができればいいのかなと思った。

(委員) 最初からずっと参加しているが、話についていけない。自治振興条例ということで4つの班に分かれた。1班は環境保全について様々な観点から意見が出て集約していく中で、共助と連携という形になり、さらに今助け合いとつながりのまちづくり条例となり、ついていけない。条例に関して具体的な対応は言っていたが、これは大切なことだと思う。条例案ができてくる中で、それぞれを見ていると、具体的に何を言っているのか、どうとでも取れる、わからないと思う方がかなりいると思う。自治会に期待する役割という中に書いていることは、行政から期待されるであろうと思うが、資金等がないと実際に動かないことが多い。予算を寄付で集めるのは非常に厳しい。資金の裏付けがないとどうしようもない。期待はしてもらってもよいが、それだけの裏付けもしてもらわないといけない。

(コ) 例えば西山の環境整備で、この会議でどういうことをしているかわかったので、無作為抽出の会議は必要だという意見があった。具体的な課題について検討しているからこそこの条例が作れているのではないかなと思う。

(会長) 自治会に役割を期待すると同時に、10条の行政のすべきことという中に、必要な支援をすることを行政に義務付けている、ただ、どの程度の支援が必要なのかはこの後議論していくもの。

(委員) 10条に書いてあるということは分かった。

(会長) 落としていたが、条例の名称で助け合いとつながりのあるまちづくり条例がよい

という意見だったか？

(委員) はい。

(会長) 子育て世代の表現についてはもう一度練り直したい。

(委員) 条例で市民に自治会の義務を課さないところに違和感がある。役員として奔走しているが、区域の方が自治会に入っていないことによる弊害がある。自治会は公共的な組織になっていかないといけない。条例では市民に義務を課すものだと思っている。今の自治会はもうだめだと思っていたが、自治会を再生するのが得策。非常に行政が守りに入っていると思う。意見を聞くのが良いが、市民がワガママになりすぎている。権利と主張を大きくしていった方が良いというのがまかり通っている。責任と義務、権利と主張のバランスをとっていかないといけない。自分たちの地区は誰が守るのか。

(副会長) 同じ立場として非常に共感できる。この条例がこの条文になった経過は、条例全体の取扱説明書みたいなものを副次的に作ってもらわないと、会議の参加者から不満が出ると思うので、そういったものをこれから作ってもらう予定。自治活動のベースは自治会が一番だと思う。通常的生活から出てくる問題を解決する機能が自治会にはある。自治会への参加は本人の自由意志であるため、自治会の本来あるべき姿を地域の方にお示しするなど地道な活動しかないと思っている。

(会長) 義務を課したり制限するのは条例でないといけない。ただ、すべての条例が義務を課すものではないということを改めて強調したい。今回の条例は先ほどのご意見とは異なるものになっている。

(委員) 自治会の加入は自由意志だというのは分かる。自治会の活動で自分が班長や組長をやるのが難しいので脱退する高齢者がいる。行政に後押しをしてほしい。

(会長) 後押しをするのであれば、この条例がまさにそうだと思う。ただ、同調圧力のよ  
うな、反響性のようなものは良くない。

(委員) 1条も目的について、なぜ共助だけにクローズアップしているのか。

(会長) この条例は共助を充実させるためにどのような仕組みをとったらいいか、共助と公助のつながりや連携について中心にこの条例では定めているため。

## まちの課題と解決策について

### ア 資料説明

資料「第6回自分ごと化会議 まちの課題と解決策に対する意見に対する回答」について  
市事務局より説明

### イ 意見交換

(コ) 第2稿についてはいつどのように公開するのか。

(市) ホームページで公開する。自分ごと化会議の委員には郵送で送る。

(コ) では課題1の1から議論を始めたい。自治会の加入率などについてご意見は  
いか  
がか。

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化  
会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

(委員) 条例に期待している部分があって、12条なのだが、コミュニティ単位で組織してもらえると良いなと思っている。加入率うんぬんよりは孤立している人がいるのかどうか、どうしたら地域のつながりを作っていくことができるのか。

(コ) 目指すところは困っている人に情報が届くことではないかと思う。

(委員) 今のご意見に私も賛成。これまで協議してきたが、加入率は限界だと思う。どうやって皆さんに情報を得てもらえるかが大事だと思う。広報紙をポスティングしてもらっているが、ポストの下のごみ箱に捨てられている。広報紙をちゃんと読むように掲示板に貼ろうとしている。広報紙でしか得られない情報もある。

(委員) 自治会に入っていない。入りたいが入り方がわからない。私は单身なので、どこまで協力できるかわからない。「单身者でもこういうことができますよ」と自治会から発信してもらえると助かる。入り方についても、もう少し説明してもらえると入りやすい。

(市) 自治会への加入の仕方は、転入した方については、市民課で資料を渡している。転居した場合は自治会長に申し出てもらおう。自治会長が誰かわからなければ自治振興室が案内する。

(委員) 自治会に入ってこれない方や若い方が転勤で都内に住んでもう長岡京市に帰ってこない場合、高齢者だけ残される。誰も自治会加入の説明に言っていないというケースがある。自治会長等の役をするのは嫌だとか、退任年数だとか、この条例の中だけでは扱いきれない問題があると思う。

(委員) 自治会の入り方がわかりにくいという意見があったが、自治会にSNSで加入できるようにしたり、自治会に加入するメリットがあれば示してほしいと思う。また、自治会に入っていてクーポンがもらえたりすればよいと思った。環境について考える機会が増え、ごみを減らす活動を個人的にやろうとしている。ごみの中で水分が80%ほどだということなので、コンポストでたい肥に変える活動をやろうと思っているので、自治会以外でも地域と繋がれる活動ができればよいと思う。ベランダでもコンポストを使えるようなものがある。

(コ) 自治会とテーマ型の団体のつながりなどもできたらよいということか？

(委員) つながることができれば高齢者などとも繋がれるので良いと思う。

(委員) 私のところは自治会がない。入る入らないの議論をされているのは残念。自治会がない私にとって情報源は広報紙やホームページだけで、今回会議に参加するまでは地域のことに関心なかった。自治会に入ると地域と繋がれる利点はあるが、なかった時にどう情報を届けるのか。

(コ) 加入する、しないではなく、情報の孤立をどう防いでいくかという点に配慮しなければいけない。

(委員) 参議院選挙の投票率が悪い。投票率と自治会と共通するかわからないが不安である。昨年の衆院選では、京都市内で選挙の広報の配り忘れがあった。自治会加入してない地域に配り忘れたということだった。

(コ) 自治会に加入していない方や自治会がない地区の方にどう情報を届けていけばよ

いかという課題があると思う。

(市) 長岡京市はすべての世帯に広報を配っている。選挙公報も全世帯に配っている。長岡京市の LINE を登録している方については、防犯灯が切れているなどの情報を入力できるような機能もある。

(コ)環境の分科会なので、市への環境についての課題などがあればご意見いかがか。

(委員) 広報紙や SNS など情報発信をしているが、情報が届いていないと思った。魅力発信の情報も行っていくべきだという意見があった。SENSE 長岡京というホームページやインスタグラムで、独自のライターがグルメ情報を載せたりしている。クロスメディア展開によって、媒体を超えて情報発信していくことが大事だと感じた。

(委員) 経験が大事だと思う。小さい頃から山に入るなどの経験が大事だったと思うが今の子はなかなかそういうことをしてきていない。竹をキーワードにまちづくりを行って行ければ。

(コ) 最後にゴミステーションや環境保全について、ご意見があればお聞きしたい。

(委員) ゴミ掃除をあまりにひどいので市に依頼したが、ちゃんと対応していただいた。ゴミステーションのマナーについては市にちゃんと対応していただいていると思う。高齢者で自転車の乗り方などのマナーが悪い。老人にもマナーを守る意識を持ってもらいたいと思う。年寄りを甘やかしてはいけない。市は知らしめることはできないから、警察と連携して非常に危険であると示してほしい。

#### 自分ごと化会議最終回に当たっての感想

(コ) 最終回になるので、一人ひとり自分ごと化会議に参加しみての感想を伺いたい。

(委員) 最初の方は会議にたくさん若い方がいて意見を聞いてわくわくした。こういった会議が続いていくと良いと思った。

(委員) 民生委員として手を挙げて出席した。民生委員と自治会の関係について、自治会を脱会した方への支援は民生委員が行っているが、一人で何ができるのかと。今年からは自治会活動にも携わっている。また、みどりのサポーターで緑化を行うために、住民の家を回っている。そういう場を作ってほしい。地域を自治会だけでなくみんな手できれいにできたら。

(委員) 西山のごみや環境について知ることができてよかった。できないことを理由にしていた。何かをきっかけに変わっていけることもある。意識が変わると変わってくる。NPO で、放課後児童クラブで4年生以降も受け入れをしているところが知られていない。発信をすることで、興味がある方に見てもらえる。市職員と実際に会って子どものためにいかに尽力されているのか、というのがわかると考え方も変わってくる。行政と市民が連携しながら良い市になればいいと思う。

(委員) 2回しか参加できず申し訳なかった。環境の班に入ることができて、ごみの事を考えるきっかけになった。自分がやりたいと思ったときにどこに連絡したらよ

いか、どこに連絡したらよいかはわからなかった。若い人たちの中にも地域のために何かしたいと思っている人はたくさんいると思う。そういった方が声を出しやすい環境を作っていただきたい。

(委員) 無作為で選ばれて参加しているが、何か自分なりに役に立つことがあればという思いで参加させていただいた。自分の住んでいるまちのことをわかっていないのだと感じた。長岡京市の宝物が次の担い手がないという課題を感じ、毎回会議に参加する際に何かできないか考えていた。自治会に入りたいと思う。

(委員) 地域のためにいろんな活動に参加されている方がいることを知った。広報紙を少しでも読んでほしいという思いで仕事をしている職員がたくさんいることを知ってもらいたいと思う。

(委員) 自由な発言が許されるのが良い。聞いてもらえることが喜びである。新しくできる公園の市民ワークショップに参加したが、意見を否定しないことがルールだった、とても気持ちの良い会議であった。行政に要請したときにちゃんと答えてもらっている、それが一番ありがたい。これからも安心安全のために行政に頑張ってもらいたい。

(条例委員) 私が条例検討委員になった時、最初にこの条例は「こういうまちにしたいな」という思いが溢れる条例であると教えていただいた。何度も会議を重ねていくうちに、理念条例は後押しという背中を押していけるような条例の文言にしていきたいと感じながら、今日会議に参加した。何かをしなければいけないという条例ではなく、後押しの条例になってもらいたい。

(条例委員) SENSE 長岡京はぜひとも地域の 150 周年イベントにも携わってもらいたい。市の広報は、掲示板ではなく、SENSE 長岡京のようなものを求めている。11 条に誰一人取り残さない情報提供を心掛けることとある。コミュニティ協議会の会長をしているが、いつもそれは心に留めている。それぞれの意見を遮ることのないように、それがコミュニティ協議会の役割だと思っている。

(条例委員) 大事なのは条例が長岡京で話題になることだと思う。ご家族やご友人の間でぜひ話をしてほしい。今日既に自治会に入りたいというアクションに繋がっていらっしゃる方もおられる。必ずしも自治会でなくても組織団体にとらわれずテーマに共感した人達が自由に参加できるコミュニティ活動をどんどんやっていこうよというところがすごく魅力的に感じた。話題になったり、長岡京の市民と一緒に活動していこうと思える人が一人でも増えることを願う。

(条例委員) 今まで出てきた意見について、圧倒的に自治会に対する意見が多かった。自治会への意見や指摘が多いというのは、自治会はなくてはならないものであると実感した。どういう活動が喜ばれる活動か考えていきたい。

(会長) この条例を使ってどうまちづくりをしていくかが一番大事。だが、この条例で行政がどう変わるかも大事で、条例の生死を分けることになると思う。

(コ) 何か変わっていている実感を持ってもらったのではと思う。自分ごと化会議が終わった後もこの条例がどうなっているのか気にしていただければと思う。

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局



今後のスケジュール

(市) 12月の議会に向けて条例の取り決めなどを行い、12月に議決を受ける予定。  
状況については、広報紙などで随時発信をしていく。

条例の解説書と、動画を作りたい。プロジェクトチームを編成して作成していきたいので、委員から募りたい。